

あなたに届ける、
想いとふるさと。



富士吉田市ふるさと納税 MESSAGE BOOK 2025

**BRAND NEW
FUJIYOSHIDA**

あなたが
まだ知らない、
富士吉田。

富士吉田市ふるさと納税 MESSAGE BOOK 2025

あの人は、
どんな人だろう。
喜んでくれたかな。
話してみたいな。
いつか、このまちの景色を
見に来てほしいな。
いつか、このまちの人に
会いに来てほしいな。



booklet message

ふるさと納税制度が始まってから17年が経ちました。地方自治体にとっては、いただいた寄附を市民生活の向上や地域活性化の財源として活用でき、心強い制度となっています。一方で、自治体間の返礼品競争の過熱など本来の主旨から逸脱する運用が懸念されているのも事実です。

富士吉田市ではこれまで、寄附先として選んでいただく理由を増やす取り組みに努めてきました。それらは、魅力的な返礼品を増やすだけでなく、独自のデザインで富士吉田市らしいイメージをつくり、返礼品が届いた時や開封した時の感動づくりにこだわり、いただいた寄附でまちがどう変わったのかを出来る限りお伝えし、万が一不手際があっても誠心誠意対応する、などのことです。そしてそれらは全て、寄附という形でいただいた思いへのお返しであり、受け取った方への感謝の表現、関係づくりの意思ともいえます。私たちは、お金や返礼品のやりとりだけで終わらない関係づくりがふるさと納税本来の意義であることを信じ、これからも大切にしていけることを願っています。

そのために、本冊子では富士吉田市ふるさと納税の返礼品事業者や富士吉田市民、実際の寄附者の方々、そして普段は表に出ることのない行政職員の制度に対する想いをそれぞれの視点で語っています。それぞれの言葉から、富士吉田市ふるさと納税がこれまで守ってきた“変わらないもの”を感じ取っていただけたら幸いです。

message

from FUJIYOSHIDA

「富士吉田を好きになってほしい、ご縁があった方を精一杯もてなしたいという気持ちで、さまざまなチャレンジをしてきた」と話すのは、立ち上げから10年、富士吉田市のふるさと納税を担当してきた萩原美奈枝さん。自身が市外に住み、富士吉田へのふるさと納税をしてきた視点もいかな

が、関係人口を増やすことに尽力してきた10年について聞きました。

— ふるさと納税の担当になる前には、ふるさと納税に関してはどんなふうに思っていましたか？

萩原美奈枝さん(以下、萩原) 私は富士吉田出身で他市に住んでいるため、自分の納める住民税の一部は、自分を育ててくれて、お給料をいただいている地元・富士吉田市に納めたい。まさに、ふるさと納税制度のシンプルな理念にすごく共感していました。担当になり、富士吉田のことを知らない人に富士吉田の魅力をお伝えしていけるんだ、とワクワクしましたね。その頃は、他と比較検討することもなく、富士吉田にふるさと納税していたので、さまざまなポータルサイトがあることは担当になってから知ったんです。他とも比較されるならば、まずは自分が受けたいサービスをしようと考えて、一つひとつ実践していきました。

— たとえばどんなことでしょうか。

萩原 いろいろとやっただんですが、話題になったのは、富士吉田の忠霊塔とQRコードのシールを貼ったミントタブレットを、寄附受領証明書と一緒に送ったことです。これがいわば招待券代わりで、市民が無料で入れる施設にご招待しました。「市民と同じように税を収めてくれた人だから」という考え方でですね。広告を使わなくても、SNSの口コミで広がっていく。これが、富士吉田のコアのファンを増やしていくスタートだったと思います。月に数回、担当だけではやりきれず、他の職員にも手伝ってもらって、発送作業を行っていました。今では、納税してくださる方が多くて同じことはできないけれど、おもてなしの原点でしたね。行政ではあまり例のないことでも、そういった取り組みを理解してやらせてくれた上司や、挑戦を後押ししてくれる市長、当初から市が丸一丸となって取り組んでいた。それがすごく幸運だったと思います。





クラウドファンディング
 充当から投資へ。転機になった展望デッキの

— 今では、富士吉田は額でみれば県内一、全国でも上位のふるさと納税で成功した自治体といえると思います。萩原さんが担当になった時点ではどんな状況だったのでしょうか。

萩原 私を担当する前は年間 300 万円くらいの額でした。それが取り組みを始めて 9000 万円になって、そこからずっと右肩上がりです。財源が増えることは行政にとってすごくいいことで、これまでできなかったことにも一歩踏み出せる、新しいことにチャレンジできるようになります。そうなると、協力してくれる職員もどんどん増えてくる。いい循環が生まれていきました。新倉山浅間公園の展望デッキを、ふるさと納税のクラウドファンディングでつくれたことは、富士吉田のふるさと納税に関するプロジェクトをするうえで、大きな原動力になっていると思います。展望デッキ増設の予算が 1 億円だったのでその額で挑戦しましたが「集まるはずないよね」と思っていたのが本音です。それが、8600 人もの人から、合計 4 億円を超える寄附が集まった。寄附金の使い道を明確にすることで、賛同者を増やし、財源を活用してまち

の活性化につなげていくスタイルとして、これからのまちへの「投資」という考え方に変わっていきました。

— なるほど。たしかに足りない分を埋めるのではなく、もっと素敵なまちにするための行動が、ふるさと納税に支えられているんですね。

萩原 この展望デッキに関しては他にも思い出深いことがあって、コロナの影響で、寄附してくださった方を招いたイベントの予定を泣く泣く中止したんです。そうしたら、中止のメールにたくさんの返信が来たんです。「残念だけれど、別の機会にきつと行くよ」という趣旨のものが多くて、本当にありがたかったです。実際にその後「行っちゃ」と連絡をくれる方々もいて。

今、富士吉田にふるさと納税をしてくださった方の数は、累計で 100 万人を超えているので、私が直接やりとりしたことがある人はほんの一部です。だけど、どんなに数が増えても、究極は、「目の前の人のために」という気持ちだと思うんです。「想いをつたえる」という、そこからのスタートしかないと思う。規模は大きくなっても一人ひとりが大切。返礼品を送る段ボールの箱、同梱する富士吉田市内の子どもたちの描いたカード……一つひとつのものにちゃんと想いをのせれば、何かしら伝わっていくと信じています。そこには、クリエイティブの力が必要。ノベルティのデザインにもこだわれば、ちゃんと受け取ってもらえることも実感しています。

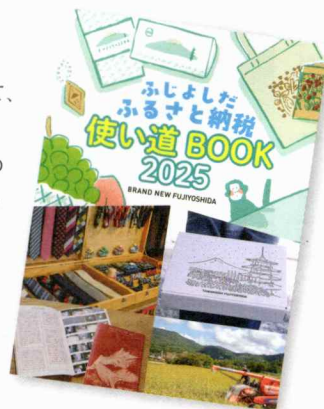
富士吉田を好きになってもらいたい。

その先にあるのは…

— ふるさと納税でできた事業も増えてきて、富士吉田市民にも変化がありましたか。

萩原 市内全戸配布の『ふるさと納税の使い道 BOOK』をつくったのは、赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆるところにふるさと納税の寄附が使われていると市民に伝えたかったからです。

「富士吉田に何十億の寄附が集まりま



した」と話題になるけど、市民にそれがどう還元されているのかを伝えられていない反省もありました。きちんと伝えることで市民の満足度が上がって、自分のまちを誰かに伝えたいくなる。それが、「自分のまちにふるさと納税をしてほしい」という想いにつながり、自らPRしてくれるきっかけになると思うんです。

— たしかに、自分たちの暮らしにつながっていることが可視化されて、そこに共感できたら、まわりにも薦めたくりますね。

萩原 日本の地方全体の人口が減っているなかで、それぞれの自治体が財源を確保するのは難しくなっていくんです。そう考えると、ふるさと納税って、本当に地方の自治体にとって新しい道が開けるチャンスに満ちていると思う。やらない手はないんです。

— 今、萩原さんの仕事はふるさと納税にとどまらず、富士吉田全体のプロモーションに関わっていらっしゃいますね。

萩原 最初はひとつの担当だったのに、課、部と大きくなっていて、現在ふるさと納税を管轄している「ふるさと創生室」は市役所の中でも、大きな部署のひとつになっています。人数も増えて、ふるさと納税だけでなく、移住・定住の推進も

大事な仕事です。ひと言でいえば、シティプロモーションを担う部署なのですが、実は、ふるさと納税に関連して自分が今までやってきたことのすべてが、ここにつながっていたんです。それに、ふるさと納税がどうしてできたのか？ ということに立ち返れば、ゴールとして設定されていたのは、地方への移住を増やすこと。ふるさと納税で、自分の支援したいまち、あるいはUターンしたいまちがあることに気づいていけたらいいですね。寄附することにつながって、最終的にはその地方で暮らす。まちとの関係性を紡ぐスタートからゴールまでを、富士吉田市ではひとつの部署でできているのは素晴らしいことです。自分が、目の前の人のために「やりたい」と思って取り組んできたことに、今、みんなで取り組めていることが嬉しいですね。

— あらためて、ふるさと納税と暮らしている自治体に納めている住民税との違いを考えてみたら、何に使ってほしいかを選べるチャンスがあることも大きい気がしました。

萩原 大枠ではあるけれど、自分が応援したい分野を選べることは大事にしたい。富士吉田では、寄附する段階でも使い道は選んでほしいし、寄附したお金が実際にどんなことに使われているかをお伝えするのも、大事なことだと考えています。官製通販と揶揄されるように、ポータルサイトの返礼品一覧から納税先を選ぶことが当たり前になっている現実もあります。そういう人たちにも、自分の寄附で、「このまちはこう変わったんだ」と気づいてもらえば、少しずつ「ここに寄附してよかった」と思う人が増えていくと思っています。



furusato nouzei tool



返礼品になっている商品やその生産者の魅力を伝えるギフトカードや冊子、動画なども制作しています。他にも事業者向けの梱包の説明書や、フルーツ用の箱はオリジナルで作り、商品だけでなく、富士吉田市の空気を感じてもらうための施策を続けています。

communication



寄附者と市民の交流を目的に開催した「富士吉田にZOKKON」では、過去に直接メールでのやりとりをしたり、PRイベントなどで会うことのあった寄附者の方々と再会を果たすことも。関係づくりを大切にしているからこそ生まれる光景と言えます。

10年連続で富士吉田に寄附をしてくださっている中野さんご家族。娘さんが社会人になってからは、なんと親子で富士吉田に寄附をしてくださっています。半年～1年に一度は東京から富士吉田に遊びに来てという、富士吉田との結び付きが深い寄附者さんです。



東京都在住 富士吉田寄附歴 10年目
中野さんファミリー（左から佑紀さん、仁美さん、隆広さん）

— 中野さんご家族は10年連続で富士吉田に寄附をしてくださっていますが、寄附をいただいた最初のきっかけは何だったんですか？
隆広さん 昔から富士吉田には何度か家族で遊びに来ていたんです。富士急ハイランドに行ったり温泉に入ったりして、来ると必ず良い思い出ができる場所という印象だったので、感謝の気持ちと今後の発展への願いを込めて寄附をしたのがきっかけです。

— ありがとうございます。そこから毎年寄附を続けてくださっているのには、どのような理由があるのでしょうか？

仁美さん 初めの頃に感動したのは、傷んでいる農産物が届いたことをお伝えした際の市の職員さんの対応の丁寧さでした。事業者ごとに発送をしているため品質管理が難しいのだろうと思いつつも、今後のためになるように一応メールで事情をお伝えさせていただいたのですが、それを見た職員さんからすぐに謝罪の電話とメールがきて、改めて新鮮な農産物を送り直してくださったんです。他の市で同じようなことがあってもこのような対応をしてもらったことはなかったので衝撃を受けて、そこから富士吉田を応援していきたいという気持ちがさらに高まりました。

— 当時は貴重なご意見をありがとうございました。現在は昔以上に、事業者さんにきれいな梱包の仕方やPRの仕方などをお伝えする時間を設けるようにしています。全国からたくさんの方に寄附をしていただき、事業者さんの姿勢も変わってきているのを感じます。

隆広さん 努力をされているから、きっと年々良くなっているんでしょうね。PRという部分でいうと、富士吉田はビカイチだと思います。このふるさと納税HANDBOOK一つを取ってみても、内容も面白いしデザインも可



愛いし、読むと思わずまちに足を運びたくなるんですね。同封される市内の小中学生が描いた絵葉書も毎回楽しみです、寄附者向けのツアーにも参加してまちのみなさんのホスピタリティに感動し、家族ですっかり富士吉田のファンになってしまいました。娘が社会人になってからは、親子二代で富士吉田に寄附をしているんですよ。

仁美さん 富士吉田からは、寄附金と返礼品のやり取りだけで終わらず、長く関係を築いていきたいという想いが伝わってくるんですよ。もはや地元のような感覚で、当たり前のようにニュースでも富士吉田のことをチェックしていますし、観光地で起きている問題を耳にしたりすると、「何か良い方法はないかな？」と家族で話したりしているんですよ。— そんな風に家族でいつも市のことを気にかけていただいて嬉しいです。中野さんご家族には、昨年10月に富士急ハイランドで開催した寄附者と市民の交流イベント「富士吉田に ZOKKON」にもご参加いただきましたが、イベントはいかがでしたか？

佑紀さん 返礼品に実際に触れられる物販ブースやガチャガチャブースが楽しくて、その場に3時間くらい滞在してしまいました。返礼品を手に取りながら生産者さんともお話ができたので、よりアイテムへの愛着も湧きましたし、「自分たちの寄附が少しでもこういう方の役に立っているのかな？」と嬉しく感じました。

仁美さん 私はかえる舎の高校生たちが自分たちの視点から見たまちの様子を自分たちの言葉でプレゼンする姿がとても印象的でした。子どもたちの目の輝きを見ると、「このまちに暮らす子は幸せだろうな」と感じますし、それはきっと地域の大人たちが良い種まきをしてきているからだろうと思います。地元を愛することは日本を愛することにもつながっていくと思うので、これは良い社会をつくるための活動と言えるのではないのでしょうか。毎回寄附金の使い道は教育を選んでるので、これも寄附の効果だと嬉しいなと思いました。



隆広さん 市長さんからの挨拶の中で、「みなさんのおかげで市内の小中学校のトイレがこんなにきれいになりました」とご紹介いただきましたが、ああやって教えていただけると、「自分たちの寄附が地域の子どもの役に立っているんだな」と実感できて嬉しいものです。富士吉田はイベントや冊子を通して寄附金の使い道をしっかりと紹介してくれるので、また寄附をしようという気持ちになりやすいんです。

— いつも本当にありがとうございます。最後に、今後の富士吉田のふるさと納税に期待することを教えてください。

隆広さん 富士吉田はふるさと納税という制度の本来の目的からブレずにここまでやってこれていることが素晴らしいと思います。今後もし担当者の入れ替わりがあっても、今のやり方や想いを引き継いで、チーム一丸で頑張っていってほしいです。

仁美さん 子どもたちの将来のためになることに積極的に寄附金を使ってほしいです。また、富士吉田は魅力がいっぱいでもっと人に来てもらべきまちだと思うので、親子で参加できる富士吉田ならではの体験系の返礼品が増えたら良いなと思います。富士吉田のふるさと納税には、いつも期待以上のものを返していただいています。寄附者だからどうかというわけではなく、富士吉田を応援する仲間として、今後も一緒に楽しませてもらいたいです。



富士吉田市のPick Up Action



中野さんが富士吉田市との関係が深まるきっかけとなった返礼品の品質管理と梱包について、富士吉田市が取り組むのは「梱包のキホン」！ 返礼品事業者に対して梱包の大切さ、発送時のチェック項目などを学べる冊子を作っています。

名古屋在住の堀さんは、富士吉田出身の友人・近藤さんに薦められたことをきっかけに、8年連続で富士吉田に寄附をしてくださっています。今回は名古屋を訪ね、富士吉田を応援し続

けてくれている堀さんと地元への熱い想いを持つ近藤さんにお話を聞きました。



— 堀さんは近藤さんに薦められたことをきっかけに毎年富士吉田に寄附をしてくださるようになったそうですが、それまではふるさと納税の制度を利用したことはありましたか？

堀さん 毎年どこかしらのまちに寄附はしていたのですが、私は生まれも育ちも名古屋で特定の地域に特別な思い入れがある訳ではなく、寄附先もその時々で欲しい返礼品があるまちを選んでいました。でも8年ほど前に近藤さんから、「富士吉田は返礼品も魅力的なものがたくさんあるし、市の特設サイトから会員価格で寄附ができてお得なんだよ」と教えてもらい、試しに寄附を試みたんです。そしたらとっても満足度が高くて、その後も寄附を続けるようになり、「もう富士吉田だけで十分かも？」と感じたので今は富士吉田一筋です。

— 富士吉田一筋…！ありがとうございます。富士吉田のふるさと納税のどのようなところに満足していただいているのでしょうか？

堀さん 富士吉田は職員の方の対応も丁寧ですし、返礼品を配送する段ボールや同封されている広報物もきちんとデザインされていて、きっと返礼品もこだわって選んでいるんだろうなという安心感があるんですね。お肉から始まり、シャインマスカット、ビール、コー

ヒー、お餅、焼売などいろいろ選んできましたが、どれもすごく美味しかったです。

— そう言っていて嬉しいです。デザインは、数ある自治体の中で少しでも富士吉田らしさを感じてもらえたらという想いで、さまざまなクリエイターさんの力を借りながらこだわってつくっています。

近藤さん 寄附金受領証明書まで可愛くて、どこを取っても全く事務的な感じがしないんですね。丁寧な姿勢や想いが伝わってくるから、地元を離れていても富士吉田を応援したくなるし、自信を持って人におすすめできるんです。これまで何人に薦めたかわからないくらい、たくさんの人に富士吉田のふるさと納税を薦めてきました。多くの方がリピーターになってくれていて、職場でも上司が、「昨日テレビで富士吉田が紹介されていたよ」

なんて話しかけてくれたりするんですよ。ふるさと納税を通して、これまで富士吉田に縁のなかった方々にも身近に感じてもらえていることが、とっても嬉しいです。



愛知県名古屋市在住 富士吉田寄附歴 8 年目

堀さん・近藤さん



堀さん 私も職場の人たちに富士吉田のふるさと納税を薦めていて、毎年9月頃になると誰かしらのお弁当に丸果園さん(P31)のシャインマスカットが入っているんです。(笑)サクツとしてみずみずしくて本当に美味しくて、この辺りのスーパーで買うものとは全然違うんですね。職場の人たちもすっかりファンになっていて、「丸果園さんに行ってみないね!」なんて昼休みに話したりしているんですよ。

— 名古屋の方の日常の中で富士吉田の話題が出ているなんて嬉しいです。そうやって多くの方がお知り合いの方に紹介してくださって、寄附者総数が約100万人まで増えたのだと思うと、本当にありがたいことです。

堀さん ここまで一つ一つにこだわっている市はなかなか無いので、おすすめしたくなるんですね。2022年の夏には、家族で富士吉田に遊びに行きました。近藤さんにいつも話を聞いていたことと、返礼品に同封されていたガイドブックを見て、「これ食べてみたい!」「この景色を見てみたい!」などと思ったことが足を運ぼうと思うきっかけだったと思います。富士急ハイランドに行って、富士グランヴィラ TOKI に宿泊して、本町通りや西裏を歩いて、すごく

充実した時間を過ごすことができました。

近藤さん 滞在中に堀さんから楽しそうな写真がたくさん送られてきて嬉しかったです。私は富士吉田を離れて雄大な富士山のある景色が特別だったことを実感したので、あの景色をぜひ多くの人に見てもらいたいと思っています。こうしてふるさと納税が寄附金と返礼品の交換だけで終わらず、その先につながっていったら理想的ですね。

堀さん 名古屋のデパートの催事場でハタオリトラベルがポップアップをしていた際にも足を運んで、織物アイテムを購入しました。実は今日もその洋服を着ているんです。次は秋に開催されているハタオリマチフェスティバルに行ってみたいです。気になっているストールもあるので、実際に手に取ってみる日が待ち遠しいです。こんな風に一つのまちを深く楽しもうと思う日がくるなんて、思ってもみませんでした。— ふるさと納税が富士吉田のまちに興味を持つきっかけになっていることが実感できて嬉しいです。最後に、今後富士吉田のふるさと納税に期待することがあれば教えてください。

堀さん 寄附金の使い道は実際にそのまちにいる方に決めてもらえればと思い、いつも「おまかせ」を選んでます。ただ、やっぱりどこの自治体も少子化や高齢化、医療や福祉の不足は深刻な問題だと思うので、そういった市民の方の生活を支える部分が充実していくことを一番に願っています。そして、暮らしやすいまちになることで若い世代の移住が増え、よりまちが盛り上がっていけば良いと思います。これからの富士吉田の進化も楽しみにしています。

富士吉田市のPick Up Action



堀さんが富士吉田市への寄附をはじめられた当初から利用されている富士吉田市ふるさと納税特設サイト。お得に寄附できるだけでなく、オリジナルコラムでの情報発信も見どころ!

ふじよしだ市民3人の ふるさと納税クロストーク!

わたしたちのふるさと納税

市民のみなさんは、ふるさと納税が市の施策に使われることで、身の回りやまちの姿の変化をどう感じているのでしょうか。富士吉田市に暮らす子育て世代の同級生3人にお話を伺いました。

日頃の会話にもよく出てくるんです

— ふるさと納税に対して、みなさんはどんな印象を持っていますか？

角田 私は3月まで家族の都合でタイに住んでいたんですけど、その前にふるさと納税を利用していたことがありました。お得に産地のいいものが手に入るという印象です。

舟久保 私は利用したことがないのですが、ふるさと納税ではそれぞれの自治体が地域の魅力を発信しているので、知るきっかけになりますよね。住んでいる私たちよりも他県の方が富士吉田の魅力を知ってくれていることもあって、逆に気づかされることもありました。返礼品で富士吉田のいいものをいっぱい掘り出してくれていますよね。だから、私たちも知る機会が増えています。

広瀬 私も利用したことはありませんが、以前、肉屋さんや保冷剤に関わる仕事をしている友人から「すごい忙しいよ」と聞いていました。そんなに盛り上がっているんだ、という印象はありましたね。私自身は事業に関わったことがないのですが、数年前に子どもが宿題で描いた絵が、お礼状として送付する絵手紙に採用されたことがありました。選ばれると子どももやる気になりますよね。そんなふうに小中学生や高校生を巻き

込むことで、モチベーションも上がりますし、普段の宿題が楽しくなると思います。

— 市民として、ふるさと納税によるまちの変化をどう感じていますか？

舟久保 子育て世代の観点から言うと、給食費の補助は家計的に助かっています。給食費の無償化は全国に先駆けてでしたよね。子どもが小学校のときから補助してもらっていたので、ありがたいです。

広瀬 新聞で、忠霊塔の展望デッキが整備されたことを知りました。ふるさと納税クラウドファンディングを活用したんですね。宮川橋南駐車場もそうでしたよね。

舟久保 きれいになったよね。

角田 帰国してから、本町通りの人通りが格段に増えたことを実感しています。トイレや駐車場が整備されることで、観光客の方がより利用しやすくなるのはいいことですね。

舟久保 私は、道の駅富士吉田のリニューアルもすごく楽しみにしています。

広瀬 県外から友人が遊びに来るときにも、お土産や食事などで案内しやすい場所になりそうだなと感じています。

角田 ジビエセンターも

できたよね。

広瀬 県外から

友人が来たら

一緒に行こう

○ 舟久保さん ○

給食費の無償化や
学校のトイレをきれいに
してくれたり、子育てが
しやすいまちになるね

と思っています。以前来てくれた友人が吉田のうどんに感動してくれて、5年経ったいまでも「なんで安くてあんなに美味しいの」と言ってくれていて。

舟久保 すりだねも意外とファンが多いよね。

広瀬 そう。どこへ行ってもすごく喜ばれるから連れて行き甲斐があります。また来たいと言ってくれているので、案内できる場所が増えるのは市民として嬉しいです。

— 別のご友人や知人と、富士吉田のふるさと納税について話す機会がありますか？

角田 私はタイで住んでいたマンションに日本人居住者が多くて。出身はどこですか？という話を互いにするんですけど、「私が住んでいたまちはふるさと納税がすごく魅力的で」ということをよく話していました。

広瀬 すごいね。

角田 ふるさと納税に興味がある人も多かったの、「今度寄附してみようかな」と軽い感じで話してくれる子に、「返礼品の種類が豊富で、食べ物以外にも地元で力を入れているものがたくさんあるからぜひ見てみて」と話をしたことがあって。幅広い返礼品を選べるのは魅力だと思っています。

— ふるさと納税事業を担う方々に伝えたいことはありますか？

角田 受け取った側が箱を開けたときに喜んでくれることは、事業者にとって大きな力になると思うんです。

○ 広瀬さん ○

これほど多くの方が寄附をしてくださっているのは、魅力ある事業の証なのでぜひ続けてもらいたいです。ふるさと納税をきっかけに富士吉田に足を運びたいと思ってもらえたら嬉しいですよね。

舟久保 返礼品としてもものづくりをされている方たちは、いいものを届けたいという思いでいると思います。そんな想いや商品を知っていただけるのが、制度のいいところですね。富士吉田では寄附をいただいて返礼品を送ることに留まらず、去年は富士急ハイランドを貸し切って交流イベントをやっていました。

広瀬 私は参加しました。

舟久保 市民としても行きたいと思うイベントを催してくれるのは誇りです。寄附者がものをもらって終わりではなく、その後も富士吉田を好きになってもらうために事業者や市の方が努力している姿は市民としても嬉しいです。

広瀬 富士急ハイランドは身近な存在すぎてなかなか行く機会がなかったんですけど、楽しそうだなと思って家族で参加しました。○×クイズも楽しくて、抽選でお肉などが当たるイベントもあって。できるなら毎年開催してほしいイベントです。

— 今年の開催も決定しています。

舟久保 今年は行きたいです！

広瀬 市民はピンク、寄附者はブルーのテーブルを付けて、二人組で写真をSNSにアップするとプレゼントがもらえるという面白い企画もありました。そうすると交流が自然に広がっていきますよね。やはり、来てもらえるのが一番いい。もしかすると移住してもらえるきっかけにもなるかもしれませんし。すごく楽しませてもらいました。

舟久保 こういうイベントがあると、市民でもふるさと納税を身近に感じますよね。

○ 角田さん ○



別府大河

Taiga Beppu

noiの蒸留担当。2022年富士吉田市に移住し、現在はnoiの運営と共に、市内でのイベントなども手がけている。

田中麻喜子

Makiko Tanaka

noiの香りの開発・ブレンド担当。コロナ禍に東京と富士吉田の2拠点生活をはじめ、2022年に完全移住。

FUJIYOSHIDA

noi

富士山麓のワイルドアロマブランド

noi shop & tea stand

富士吉田市下吉田5-1-1

noi_aroma

富士吉田の事業者さんの想いを知る。

私たちが魅了された
富士山麓の恵みをお届けします

— noiで展開している香りを軸としたプロダクトには、どんな背景があるのでしょうか。

麻喜子さん(以下、麻) 私たちは、富士山麓に自生している樹木や植物を山主さんに使用許可をいただいたエリアで剪定しながら収穫し、自分たちで蒸留したエッセンシャルオイルを使って、アロマスプレーなどのホームケア商品や、フェイシャルオイル、マルチバームなどのスキンケア商品をつくっています。香りを飲むというコンセプトでハーブティーもつくり、お店で提供しています。私たちが事業を始めるきっかけとなったのが、クロモジの枝の香りです。爽やかな柑橘のような香りと上品な甘さの中にスパイシーさを感じる、樹木とは思えないような芳醇さに魅了されました。そうして森に関わる事業を始めたいと思い、二人で1年かけて事業内容を模索する中でたどり着いたのがnoiです。

— 昨年からふるさと納税事業者となり、印象に残った出来事がありましたか？

DIALOGUE

PROFILE

共に東京から移住した田中麻喜子さんと別府大河さんが2023年に富士吉田市で立ち上げたワイルドアロマブランド。富士山麓に自生する樹木やハーブを手摘みして香りを抽出し、ホームケアやスキンケア商品、ハーブティーなどを展開しています。



士吉田のまちに興味を持っていただくことはもちろん、他の事業者さんのことも知っていただいたり、実際にまちを訪れていただいたりなど、そんな役割を少しでも担えれば嬉しいです。これまで私たちはECとPOP-UP出店のみでの販売スタイルでした。「富士山の麓から来て…」と富士山麓の森での話を始めると、そのストーリーに関心を持ち手に取ってくださるお客さまが多かったです。だからお店でも森のことやまちについてのお話をお客さまとしていきたいです。市民の方からは逆に教えてもらうことの方が多いと思っています。クロモジについてお話しすると、「おばあちゃんがクロモジを飲んでいました」とか、「家にありました」とおっしゃる方もいて、新たな発見があります。お店を構えるということは、地域に根づいてまちの風景になっていくことです。市民のみなさんの想いを背負うような責任感もありつつ、それがやる気になりエネルギーの源になっていて、富士吉田に移住したからこそ感じられるやりがいだと思っています。



ちになります。事業者として登録する際も、市の職員さんの丁寧なサポートのおかげで何の不安も感じることなく登録することができました。

— 市役所の職員さんとはどのようなコミュニケーションを取っているのでしょうか。

麻 親戚なのかな? と思ってしまうくらいの親密さで、活動のさまざまな面でお世話になっています。市役所の方なしではnoiは成り立っていないですね。借りている山林の所有者さんも、現店舗の物件も、職員の方からの紹介です。富士吉田に移住してから、市役所の方との距離の近さを感じています。みなさんが地元愛に溢れていて、仕事以上にまちを盛り上げようという姿をいつも見ている。そんな姿勢に感化されて、気づいたら自然と私たちもお店を始めたいと思うようになりました。ブランドを始めた当初はそこまで意識していませんでしたが、いまは富士吉田のためにも続けたいという気持ちが芽生え、事業をやる意義が一つ増えました。きっと東京にいたままだったら、お店を始めようとは思っていなかったと思います。

— 初となる実店舗が5月にオープンしました。今後ふるさと納税事業者として、どんな想いをお客さまに届けていきたいですか?

大 富士吉田だったからこそnoiが生まれて、このまちが守ってきた森の恵みをいただいて商品をつくっていることを、一番わかりやすく伝えられるのがふるさと納税だと思っています。noiの商品をきっかけに富

麻 事業者となつてからはまだ半年ほどですが、富士吉田市出身の方にnoiを知っていただく機会がありました。実は、その方が私たちが新しく始めた実店舗の家主さんだったんです。県外在住で、ふるさと納税で返礼品としてnoiの商品を申し込んでくださいました。遠くからでも応援されている気持ちになりました。また、商品をお客さまに発送するときに気づいたのですが、同封する絵手紙のようなお礼状やパンフレットが素晴らしくて感動しました。私たちが手にとって、じっくりと読ませてもらいました。— お二人とも東京からの移住者ですね。市民として暮らし始めて見えてきたまちの姿はどんなものでしたか。

大河さん(以下、大) 江戸時代からの富士講や、機織りのまちとしての歴史的背景があるからかもしれませんが、私たちが事業を始めることに対して、住民のみなさんも他の事業者さんも前向きに応援してくださっています。地域によっては排他的な場所もあると聞きますし、「移住して事業を始めるのは大変じゃない?」と周りからよく質問されますが、私たちは一度も感じたことはありません。こんなにもたくさんの方に応援していただけていることが普通ではないことを、他地域の移住者の方たちの話を聞くと強く感じます。店舗をつくる際にも、周りの方が「改装を手伝いたい」と申し出てください、ボランティアとは思えない動きで力を貸してくれました。このまちの人は本当に優しくて、私たちが頑張ろうという気持ち

宮下織物

唯一無二を目指したテキスタイル

宮下織物

富士吉田市新屋1515-1

Instagram: miyashita_orimono

織物の伝統と文化を
継承していくために

— 宮下織物は老舗の機屋さんであり、浅間神社の宮司の家でもありますよね。改めて、歴史や特徴を教えてください。

宮下珠樹さん（以下、宮下） 宮下家は先祖代々富士山を祀る浅間神社の宮司の家です。1957年に宮下織物として創業し、宮司を務めながら、機織りを地域と共に行ってきました。富士山に降った雨や雪が30～100年の歳月を経て富士山の溶岩から沁み出した、純度の高い水を使って染められ



富士吉田の事業者さんの想いを知る。

DIALOGUE

宮下
珠樹

Tamaki Miyashita

テキスタイルのアイデアから設計、製造まで熟知した宮下織物の社長兼テキスタイルデザイナー。

FUJIYOSHIDA

PROFILE

1957年に創業し、ウェディングドレスを中心に舞台衣装の生地を織っている宮下織物。定番の生地から大胆なジャカード柄、加工技術を駆使した立体感のある生地まで、あらゆるテキスタイルを提案しており、多くのブランドやアーティストに生地を提供しています。



宮下 そうですね。富士山の麓に富士吉田という小さなまちがあり、土地に流れるきれいなお水を利用して高品質な織物がつくられているということを広く知っていただくのは、すごく価値のあることだと思います。私は父に、「織物の伝統と文化をこの地から無くしてはいけない」と言われて育ちました。昔は織維といえば一大産業でしたが、今は全国的にどの産地も縮小していて、「このままでは織物の生産地が日本からなくなってしまう」とみんな心配しています。—富士吉田は「ハタオリマチ」としてイベントを開催したり情報発信を頑張ったりしていて、他の産地に比べて若い人も織物業界に入ってきてくれている方だと思いますが、それでも悲しいことに少しずつ織物関連の工場は減少していますよね。

宮下 職人さんが高齢化して跡継ぎがいないと、継続していくのは難しいですね。生地づくりは決して一社で完結できるものではなく、原糸に撚りをかける「撚糸」や色を付ける「染色」、仕上げをする「整理加工」など、さまざまな工程が必要となりますが、それらの工程を請け負える工場が地域からなくなってしまうことが一番の脅威です。毎回県外に郵送するとなると、時間もコストもかかってしまい、今のようもののづくりができなくなってしまう。技術は一度失うと元に戻すことはできないので、寄附者のみなさまのお力も借りながら、みんなで協力してこれからも産地を継承していきたいです。

た服を着ていると「欲しい」と言ってもらえることが結構あるので、いずれはスカート、ワンピース、Tシャツなどもつくって、返礼品に加えられたら良いなと思っています。またぜひ相談にのってください。

—今後の展開も楽しみです。ふるさと納税を通してどんな変化がありましたか？

宮下 今は県内のお土産ショップ数カ所に商品を卸しているだけで、自社のオンラインショップにもあまり手が回っていない状況なので、ふるさと納税は宮下織物の商



品を全国の方にお届けするための貴重な販路となっています。また、都内で行われる展示会でお客さんと話をしていると、富士吉田の知名度がすごく上がっているのを実感します。ドラマなどの影響も大きいと思いますが、きっとふるさと納税の効果もあるんだろうなと思っています。

—おかげさまで富士吉田というまちの知名度は上がってきているので、富士吉田が織物のまちであるということも、もっと伝えていけたらと考えています。

た糸で、繊細で艶のある生地を織っています。ハレの日を彩るのにぴったりの華やかな生地が多いため、一流ブライダルブランドのドレスや有名ミュージシャンのステージ衣装にも多く採用されてきました。ただ、これまでは主に生地をメーカー向けに販売してきたので、一般消費者向けの商品はほとんど作ってきませんでした。

—この冊子を手にとってくれているみなさんも、どこかで宮下織物の生地を目にしているかもしれませんね。ふるさと納税の返礼品にするアイテムはどのように決めていったんですか？

宮下 宮下織物の生地を使ってくださっているメーカーさんにお声かけいただいたのが、ふるさと納税に事業者として参加するきっかけでした。孔雀と薔薇の柄のバッグから始まり、テキスタイルノートブック、マスク、袱紗など、徐々にアイテムを増やしてきました。当時は直接お客さんに商品をお届けするというイメージが湧かず、どんなものを返礼品にすれば喜んでいただけるのかわからなかったのですが、市のふるさと納税担当の方が工場に来た際に机の上に置いてあったサンプル品を手に取り、「これ良いじゃないですか!」と言ってくださり、その声に背中を押されて商品化を進めたアイテムもあります。

—機屋さんにはお宝が眠っていることがあるので、私たちも工場に足を運ぶ度にワクワクしています。

宮下 展示会で宮下織物の生地でつくっ

さまざまなイラストで富士吉田を再発見 good old market 片岡美央

これまで返礼品のダンボール・封筒・チラシ・ノベルティ等、様々な制作物に携わらせていただきました。それらはどれも、担当者の方々の「富士吉田をもっと知ってもらいたい!」「寄附者の皆様にもっと感謝の気持ちを伝えたい!」という熱意のこもったアイデアから生まれたものたちばかりです。私自身も富士吉田に暮らす中で、出会う風景やまちの空気感を誰かに伝えたいと思うことが日々あります。イラストを通して、そんな一市民の想いを、これからも寄附者の皆様と共有していけたらいいと思っています。



Edit & Direction

人とまちの架け橋になる 合同会社OULO

富士吉田市ふるさと納税の取り組みには、2018年から紙媒体のデザイン編集や公式SNSの運用、PRイベント出展時のブースデザインなど、寄附者の皆さんに接する情報発信や場づくりに多く関わらせていただきました。この7年間の中で、まちへの愛とそれを届けたという想いが、どんな綺麗なデザインや美しい写真にも負けない、富士吉田市の強い武器だと気づかせていただきました。そういった“中の人の熱”を、これからも様々な形でお届けしていきます!

想いをのせて

高校生の視点で返礼品の魅力を伝える

富士北稜高校のみなさん

富士北稜高校では、富士吉田市ふるさと納税と連携して総合ビジネス系列3年生の選択授業でふるさと納税PRツール制作の授業を行っています！返礼品の魅力や事業者さんの想いを届けるために取材を行って制作した冊子は、私たち高校生ならではの視点や表現を楽しめると好評をいただいています！ふるさと納税を通して、普段は知ることができない地元の仕事や産品を知り、誰かに自慢したくなる大切な地元になりました！



Communication

19

Photo & Design



「伝えたい」をかたちにする

BEEK DESIGN

富士吉田市にはふだんから情報発信やイベント企画などで携わっていて、ふるさと納税にも関わるようになると、知ってるようで知らなかった富士吉田というまちの深みが浮き彫りになりました。そこから生まれたキャッチコピーが「あなたがまだ知らない、富士吉田」。数年通って富士吉田のことをある程度知ったような気になっていたのですが、ふるさと納税の取材を重ねるたびに新しい発見がありました。掘れば掘るほど深みが出てくるこのまちに、ぜひみなさんにも遊びにきてもらいたいです。



ふるさと納税の

裏側

富士吉田市 ふるさと納税の

市職員 の会議の様子

富士吉田市ふるさと寄附推進課では、日々様々な会議が行われています。一人一人が担当事業者を持ち、新しい返礼品開発や認知度向上のための戦略を練るなど、時に真剣に時に楽しく会議をしています。それぞれの視点から出てくるアイデアを尊重しながら、富士吉田ふるさと納税を前進させています！



たくさんのアイデアや企画が生まれるのは、
みんなの意見を反映した会議から！



小中学生による富士山の絵手紙

毎年市内の小中学校が行っている富士山絵画コンクールの入賞作品から選ばれた絵手紙に、市長からの御礼状を記し、返礼品と一緒に寄附者の皆さまにお届けしています。



小中学生たちも採用を楽しみにしていて、
保護者の間でも話題に！



富士吉田市ふるさと納税の裏側では、どんな人たちが、どんな想いで、どんなことをしてるんだろう。普段は知ることのない、市担当職員の仕事や地元高校生までが関わるオール富士吉田の取り組みの一端をご紹介します。



富士吉田にゾクコンになってもらうための準備をみんなでやり遂げました！



富士吉田に ZOKKON準備

昨年10月に初開催された「富士吉田にZOKKON」では、総勢50名を超える市職員とボランティアスタッフが参加していました。普段はふるさと納税に関わっていない職員も、寄附者の皆さんに少しでも楽しんでいただくために、少しでも富士吉田で良い思い出を残していただくために、この日は朝から夜まで奔走しました！

シャインマスカット品質チェック

気候や環境の変化によって品質に影響が出やすいフルーツ返礼品は、毎年生育状況が気になります。富士吉田市では、担当職員が定期的に農家さんを回って、その年の生育状況をヒアリングしたり、品質確認を一緒に行っています！



品質チェックだから気が抜けない。
作物を育てる大変さを知る

地元高校生とのプロジェクト



高校生目線、おともも刺激的！

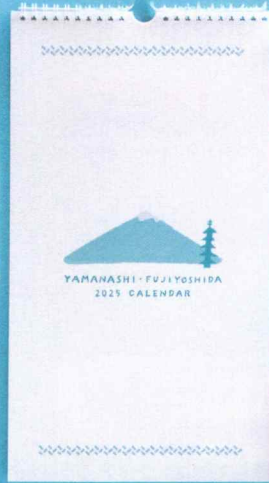


2017年から始まった、市内にある県立富士北稜高校との連携プロジェクト。高校生が事業者を取材し、魅力を伝える冊子の制作を行っています。取材をする高校生はもちろん、受ける側である事業者にとっても改めて自分の仕事を見つめ直す機会になっています。このプロジェクトを通して、事業者のところに就職した高校生もいるんです！

2022年
トートバッグ



2024年
カレンダー



2022年 ポーチ

PickUp 03



2016年 ティッシュ



PickUp 01



2017年
ミント
タブレット



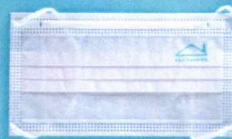
2023年 ポーチ



2019年 コースター



2022年 メモパッド



2025年 マスキングテープ



2020年 ハンカチ



2022年

キャップオープナー



2023年 コースター



2021年 マスク



2024年 コースター

2022年 ポーチ



PickUp 02

タンブラー



2018年



2019年



2023年



2022年



2025年



ボトルネックホルダー

2020年
手ぬぐい



2023年 エコバッグ

2024年 エコバッグ

2021年 記念パネル



2019年 クリップ



2018年

ランチバッグ

2018年

トートバッグ



Novelty History

富士吉田市ふるさと納税といえば、豊富なノベルティの数々。寄附者の皆さんに喜んでいただきたい、その想いから様々な目的に合わせてオリジナリティ溢れるアイテムを制作してきました。ただつくるだけでは納得できない、想いを重ねてきたノベルティの歴史。

新

倉山浅間公園忠霊塔の写真を転写したオリジナルミニタプレット。1万件を超える寄附者の皆さまへ、市担当職員が1つ1つ封筒に入れてお送りしていました。手元に届いた方が喜びや驚きの声をSNSで広めてくださり、その後の富士吉田市ふるさと納税ノベルティづくりのきっかけとなったアイテムです。付属のQRコードを読み込むと、市内の観光施設が無料になるなど、足を運んでいただくための取り組みを当時から実施していました。

PickUp 01



PickUp 02

2018年から制作をはじめたオリジナルステンレスタンブラーは、寄附者の皆さんが自然と使いたくなるノベルティを目指したアイテムです。継続的に、ノベルティらしくないちょっと良



いもので、富士吉田市らしいデザインのタンブラーを作り続けています。使いたいものを作り、日頃から使っていた中で寄附者の皆さんにも富士吉田市のPRの一旦を担っていただく、そんな関係づくりが実現しています。



PickUp 03



富士吉田市ふるさと納税を象徴するイラストとして定着しはじめているコケモモ柄。始まりは、フルーツ返礼品専用梱包箱のデザインとして制作したイラストでした。その後、イラストに対して寄附者の皆さんから大変好評をいただき、様々なノベルティに展開をしていったのが2020年からでした。いくつも同じイラストでノベルティが増えることから、全てを集めたくそんなノベルティシリーズになっています。

ノベルティの歴史が
ふるさと納税の歴史!?

Trip

around Fujiyoshida

道の駅エリア

富士吉田のふるさと納税をめぐる旅

富士吉田市は、寄附の先に“行ってみたくなるまち”になることを目指しています。会いに行ける事業者がいたり、寄附金で変わったまちの姿があったりと、実際に足を運ぶことでふるさと納税がもっと楽しく、寄附したまちがもっと身近になるはず！そんな富士吉田市のまちを大きく3つのエリアに分けて、事業者に出会えるお店や施設をご紹介します！



道の駅エリア

年間来場者が200万人を超える関東でも屈指の人気を誇る道の駅富士吉田を、お子さんも安心して楽しめ、富士山の眺望をより楽しんでいただける施設とするためにリニューアルを進めています。



ふじやまビール ハーベストエラス

富士山の天然水を使用した富士吉田ならではの地ビール「ふじやまビール」は、すっきりとした飲み口と適度なほろ苦さ、さわやかに抜けるホップの香りが特徴。レストランではビールにぴったりなお食事を楽しめます。お土産用の1L缶も人気。

富士吉田市新屋3-7-1
11:00～17:00(土・日は18:00時まで)
水曜定休



DEAR DEER

2度にわたるふるさと納税クラウドファンディングで全国のみなさまから総額6.3億円のご支援をいただき、建設が実現した富士山ジビエセンター。野生鳥獣の処理加工にとどまらず、ジビエの販売や地産地消、ジビエ文化について学ぶことができる、全国でも例が少ないジビエセンターです。



富士吉田市新屋 725-3
10:00～16:00 火・水・木曜定休
※GW・夏休みは休まず営業しています。詳しくはHPをご確認下さい。

シフォン富士

手作りにこだわり抜いた、シフォンケーキの専門店。富士吉田のお隣の忍野村で採られた新鮮な卵と、富士の裾野の朝霧牧場の牛乳など、厳選した原材料を使用して作っています。富士山の形をしたシフォンケーキ「ふじフォン」は、お土産に喜ばれること間違いなしです。



富士吉田大明見
2-23-44
10:00～18:00
火曜定休





上吉田エリア

富士山に最も近いエリアで、自然豊かで多くの公園があり、富士山信仰の歴史的なまちなみも残っています。交通の拠点となる富士急行線の富士山駅があり、駅ビルにはさまざまなお店や施設が入っています。



富士吉田市上吉田 6-6-21
10:30 ~ 18:30 金曜定休
※営業時間・定休日は変更となる場合あり

大森パン店 3776Labo

60年以上続くまちの老舗パン屋さん。店内には昔ながらの菓子パンや焼き菓子などがずらりと並びます。数量限定の山梨県産小麦「かいほのか」を使用した富士山天然酵母パンが人気。外のベンチでホッと一息つくのもおすすめです。

30~40種類のパンやお菓子をぜひ!



ネクタイからバッグ・傘まで揃います!

MILL SHOP

富士山駅ビルQ-STA内にある郡内織物グッズが揃うショップ。雨の日も楽しくなる色鮮やかな傘や、上質なリネンで織られたストール、ネクタイなど、お土産としても自分へのご褒美としてもおすすめの商品の数々を手に取ってご覧いただけます。

富士吉田市上吉田 2-5-1
10:00 ~ 20:00
不定休



古民家手相カフェ 北口夢屋

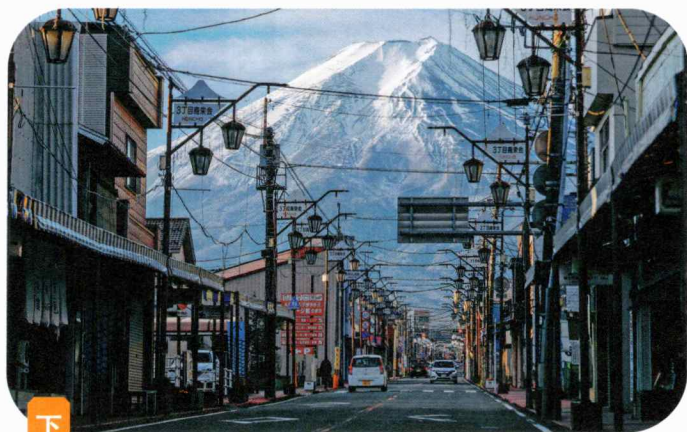
築450年の古民家で占ってます



かつては富士講の方々が宿坊とした御師住宅が軒を連ねて賑わった、歴史ある大通り沿いに建つ手相カフェ&ギャラリー。ドリンクや軽食もあり、木象嵌作品の展示販売もしています。店主自ら行う手相鑑定は、事前の電話予約がおすすめ。



富士吉田市上吉田 5-8-18
11:00 ~ 19:00 水曜定休



下吉田エリア

官公庁や学校、店舗などが集積している、富士北麓地域の中心地。富士急行線の駅が3つあり（月江寺、下吉田、葭池温泉前）、電車による移動も可能です。本町通り周辺の商店街には、個人商店や飲食店が多く、昭和の面影が残るレトロなまちなみを散策するのもおすすめ。



春木屋 月滴庵

大正時代創業の日本茶の専門店。お茶はもちろん、抹茶やほうじ茶のソフトクリームも人気です。日本茶で培った目利きの技術をコーヒーに応用して店舗隣ではじめてのコーヒーロースタリーでは、富士山の湧水で磨き洗った豆を自家焙煎したスペシャルティコーヒーも味わえます。

富士吉田市下吉田 3-19-12
9:30 ~ 18:00 火曜定休



LONGTEMPS

長い間暮らしに寄り添ってくれるインテリア雑貨と家具のお店。可愛い雑貨や北欧ヴィンテージ・イギリスアンティークの家具などに加え、地元のアトリエを構えるブランド「オールドマンズテラー」の洋服や、リネン製品ブランド「ALDIN」のプロダクトも数多く取り扱っています。

富士吉田市下吉田 3-12-54
10:00 ~ 19:00 火曜・第4水曜定休



長く使える
暮らしの道具を
増えています

JOKERS TAILOR 富士吉田店

国内での裁縫と手縫い、そして豊富な知識で最高の一着を仕立ててくれるJOKERS TAILOR。豊富な生地やボタンから好みのものを選び、体形やシーンに合わせたベストなスーツが仕上がることで人気を集めています（予約制）。郡内織物の生地やネクタイの数々も必見です。

富士吉田市下吉田 4-1-11 萱沼ビル 1-A
12:00 ~ 19:00 水・木曜定休



地元の織物を
活かしたお店
です



珈琲倶ら部

富士山の溶岩と共に珈琲豆を煎り上げて、香り豊かなコーヒー豆を販売しています。30種類以上の珈琲豆を取り扱っており、「富士五湖」「ふじやま」「樹海」などの地域にまつわる名前がついたオリジナルブレンドが人気です。世界各国の珍しい品種を試せる「今月の豆」も要チェック！

富士吉田市松山 1-4-56
9:00～18:30 日・月曜定休



東京屋製菓

昭和初期から地元で愛される老舗の和菓子屋さん。富士山にちなんだ和菓子をはじめ、四季折々の生菓子や干菓子、焼き菓子などを販売しています。お土産探しはもちろん、注文を受けて目の前で焼き上げるみたらし団子やアイス最中など店舗だからこそ味わえる商品もぜひお楽しみください。



富士吉田市竜ヶ丘 1-5-1 9:00～19:00
※日曜日のみ 18:00 まで 火曜定休



広瀬商店

地元のお母さんが真心を込めて手造りする、富士山の湧き水で仕込んだキムチの専門店。新鮮な野菜本来の旨み(甘味)に加え、高級甘味料で知られる和三盆糖や、おなかに良いとされるオリゴ糖、高品質な純果糖などを使用した旨みとコクのあるキムチは毎日食べても飽きません。



富士山の
湧き水で仕込
んでいます

富士吉田市旭 5-12-17
9:00～16:30
日曜定休



ふるさと納税の本拠地にも立ち寄れます！



富士吉田市役所 北別館には、ふるさと納税を担当するふるさと寄附推進課があります。平日の9時～17時であれば、担当職員が職務をしていますので寄附者の皆さんぜひお立ち寄りいただき、「ふるさと納税の寄附者です」とお声がけください！



BRAND NEW
FUJIYOSHIDA

あなたが
まだ知らない、
富士吉田。

富士吉田市の返礼品



事業者



担当職員



ふるさと納税 **裏** ばなし

富士吉田市では常時1000点を超える返礼品が登録されており、その全てに生産事業者のこだわりや想いが込められています。そしてその魅力を寄附者の皆さんにきちんとお届けできるように、富士吉田市ふるさと納税では選ばれる返礼品づくり、満足度向上を目指し、各事業者ごとに市職員が担当に付き二人三脚で奮闘しています。ここからは、事業者と市担当職員の掛け合いから商品の魅力、日々の裏話をお届けします。



織物

1000 年以上の歴史を持つ
織物の産地の返礼品

お話を聞いたのは

羽田忠織物



羽田忠織物
羽田さん

ブランドの世界を
守ることが大切



市役所担当・
木下さん



思わず出
かけたく
なる
ワクワク
するネク
タイを
つくりたい



1935年の創業以来、ネクタイ生地を専門に織ってきた羽田忠織物。2008年にファクトリーブランド「HADACHU」を立ち上げ、「人生を楽しむネクタイ」をつくっています。

特設サイト返礼品ページ



木下 羽田忠織物さんのアイテムは、トラディショナルな雰囲気でもカラフルで見ているとワクワクします。どのようにデザインされているんですか？

羽田 長い間ネクタイ生地をつくり続けてきたノウハウを注ぎ込むのと同時に、大好きなクラシックスポーツカー、バイク、古いフランスのイラストなどからインスピレーションを得てデザインをしています。カジュアルからビジネスまでシーンを選ばず使えるネクタイを種類豊富に揃えていて、今は 500 種類以上のネクタイがあるんですよ。

木下 返礼品以外にもまだまだ種類があるんですね。羽田さんのセンスが存分に散りばめられたこちらのショップも素敵なので、寄附者さんにはぜひ足を運んで全てのネクタイを見てもらいたいです。ふるさと納税の反響はいかがですか？

羽田 直接お客さまの顔は見えませんが、リピートがあると、「気に入ってもらえたんだな」と実感できて嬉しいです。毎年注文してくださる方やまとめて注文してくださる方もいて、ありがたい限りです。

木下 寄附者さんを意識した商品づくりをすることもあるんですか？

羽田 以前、「この方が多くの人に選んでもらえるのでは？」と考えてデザインをしたものが全く出なかったことがあって、それ以来、自分が本当に好きなものだけをつくり続けようと思えました。全国のどこかにはきっと自分と同じ感覚を持っている人たちがいるはずだから、その人たちに届けるんだという想いでつくっています。

木下 だから全ての商品に羽田忠織物らしさが感じられるんですね。

羽田 ふるさと納税というフォーマットの中でも、ブランドの世界観を崩さないことが大切だと感じました。富士吉田市役所の職員さんは、僕たち機屋のことも織物のこともよくわかってくださるので、方向性がブレていると感じた時は、率直に教えてほしいです。

木下 今後も相談しながら進めていきましょう。最後にこれからの目標があれば教えてください。

羽田 説明や想いは後から知ってもらえれば良いので、まずは直感で「素敵！」と感じていただけるような商品をつくっていきたいです。思わず外に出たくなるような、ワクワク感をお届けできたらと思います。

寝具

リピーターも多い
快眠・快適アイテム



お話を聞いたのは ▶ 山七



山七 代表取締役
羽田さん



山七 商品部部长
小林さん



市役所担当・
朝比奈さん

新しい返礼品も
一緒に考えています

朝比奈 山七さんは5年ほど前からふるさと納税事業所として参加してくださっています。どういった理由で参加を決めたのですか？

羽田 山七はホテルや旅館への布団販売をメインとしてきた会社です。コロナの流行の影響で売り上げが落ち込んでいた際に、うちの布団を使っていたいるホテル鐘山苑さんから「ぜひ返礼品に」という

お誘いをいただいたことが参加のきっかけでした。それ以前から市職員の方にお声掛けいただいていたのですが、コロナ前は忙しくてなかなか対応ができず…。個人向けの販売にも力を入れていこうという方針になってから動き出し、朝比奈さんにもたくさん相談にのっていただきました。

朝比奈 私たちからも「こんなものが欲しい」という要望をお伝えし、生地選びから一緒に考えてつくっていただいた返礼品もありましたね。山七さんの返礼品といえばふじやま織のカバーの羽毛布団。タグにも「ふじやま織」という文字が入っているのが印象的です。

小林 写真だとプリントとの違いが伝わりづらいと思いますが、ふじやま織の生地は立体感と高級感があり、実際に近くで見たり触ったりすると、その糸による細かな表現の幅に驚くと思います。そこにイングラント産ホワイトダウン 90%、ダウンパワー 350cm²/g 以上の高級羽毛をを組み合わせることで、最高の布団が完成します。富士吉田の機屋さんは当たり前のように高品質な生地を織り、それを小ロット・多品種でここまで続けてきた。それって世の中から見たらすごいことなんです。

羽田 一つの織物が出来上がるまでにはたくさんの工程があり、そこには本当に多くの人が関わっています。ボタンが渡されるようにいくつかの工場を経由して、うちに生地が届く。途中工程の工場が一つでも地域から無くなってしまうと、みんなが大変な思いをします。産地全体で元気でいるために、ふじやま織のことをもっと広めていきたいです。

朝比奈 ふるさと納税担当者の役目は、最後に回ってきたボタンを全国の方へとつなぎ、情報をお届けしていくことなのかもしれませんね。

羽田 約1000年に渡り受け継がれてきた富士吉田の織物の歴史を絶やさないように、これからも協力して頑張っていきたいと思います。



産地の織物文化を
伝えていくものづくり



ふじやま織（ジャガード生地）を使用した高級ホテル寝具・座布団などのデザインから縫製まで対応している山七。羽毛布団やマルチカパーなどが返礼品となっています。

特設サイト返礼品ページ



フルーツ

果樹王国・山梨の実りを
季節ごとにお届けします

お話を聞いたのは

丸果園



丸果園
丸山さん

寄附者の方との
つながりを大切に



市役所担当・
真田さん

おいしさの秘訣は
糖度が上がるのを
しっかり待つこと

真田 丸山さんのシャインマスカットはリピーターがとても多い返礼品です。「これまで食べたシャインマスカットの中で一番美味しかった！」というコメントも多いのですが、美味しさの秘訣は何なのでしょう？

丸山 糖度がしっかり上がるまで収穫せずに待ち続けることです。1本の木で3箇所くらいの粒の糖度を確認して、おおよそ18度以上になったら収穫するようにしています。待ちすぎると色が黄色くなったりしてくるのでみんな早めに収穫したがるのですが、私は丁度良い頃合いを見極めるのが得意なんです。朝に収穫してその日のうちに発送するので、次の日にはお客さまの元へ新鮮なシャインマスカットが届きます。

真田 毎年、担当課の職員も畑に伺って、一緒に品質チェックをさせていただいているんですね。

丸山 いつもありがとうございます。職員のみなさんかなりぶどうに詳しくなっていますよね。それに私よりも寄附者さんのことを把握しているの、「あの県の人々が今年もまとめて頼んでくれましたよ」などと教えてくれてありがたいです。そういうのを聞くと頑張ろうと思いますね。

真田 ふるさと納税にはいつ頃から参加されていたっけ？

丸山 7年前からです。担当の方が来て説明をしてくれて、最初は試しに1.4kgの箱を1,000箱ほど出してみました。それがなかなか好評だったので2年目からは2kgの箱にして、その辺りからすごく人気が出てきてあっという間に数が増え、現在は年間約4,000箱ほど配送しています。

真田 寄附者さんのご招待ツアーでシャインマスカット狩りをさせていただいたこともありました。丸山さんに会えて喜んでいる方もいらっしゃいましたね。

丸山 あれは楽しかったですね。つい大盤振る舞いをしすぎてしまいました(笑)。あれから毎年寄附をしてくださっている方もいるみたいで嬉しいです。今後も顔の見える関係性を築いていけたら良いですね。



日本有数の日照時間と寒暖差による、果物の生育に最適な山梨市八幡地区で、甘み・うま味・酸味の揃った上品な香りのこだわりのシャインマスカットを一房一房大切に育てています。

特設サイト返礼品ページ



飲料

おいしい富士吉田の水が
数々の返礼品に！



天然水の味わいを感じる
炭酸水が魅力です



お話を聞いたのは

友樹飲料



友樹飲料 富士山工場
香月さん

常に新しい
アイデアを！



市役所担当・
五味さん

五味 友樹飲料の歴史や商品のことを教えてください。

香月 友樹飲料は明治 35 年に佐賀県の小城市にある小さな町の小さなラムネ屋から始まりました。スワンサイダー、こどもびいるなどの自社ブランド商品をつくりながら、全国各地の地サイダーやラムネなどのオリジナルのドリンクも生産しています。2020 年に操業開始した富士山工場では、強炭酸水 VOX などのペットボトル製品に特化した生産を行っています。

五味 VOX は富士吉田のふるさと納税を支える大きな柱の一つです。これまでの寄附を累計すると 30 万件を超えていて、大人気ですね！

香月 世界最高峰のガスボリュームのガツンとくる炭酸の刺激と、ミネラル分を残した水の味わいが感じられるところが特徴です。実は、天然水を使用した炭酸水をつくったのも、強炭酸水をつくったのも、友樹が一番初めだったんですよ。商品開発に取り組む姿勢やお客さまに喜んでいただきたいという想いは創業当時から何も変わりません。

五味 新しいことに果敢に挑戦されてきた会社なのですね。ふるさと納税用にペットボトルが 35 本入る段ボールをオリジナルパッケージでつくっていただいた際に、デザインに対するこだわりも感じました。

香月 お客さまに与える印象が変わってくるので、デザインや伝え方はとてもこだわっています。工場内の見学コースで伝えるコンセプトも工場ごとに考えていて、それに合わせてデザインも変えているんですよ。

五味 富士吉田のふるさと納税は、実際にまちに足を運んでもらうということも大事にしているので、この工場が見学できるチケット付きの返礼品があったら喜ばれるかもしれませんね。

香月 まだまだできることがありそうで、考えるだけでワクワクしますね。弊社は地域資源を利用して商品をつくっているので、地域に恩返しをしていきたいという想いを強く持っています。毎年ふるさと納税の寄附金がどんなことに役立てられたのか紹介されている資料をチェックしては、「ああ、よかったな。もっと頑張って受注を増やして、地域に還元していくぞ」と気合いを入れています。これからも頑張っていこうと思っているので、五味さんまた相談にのってください。



軟水のパナジウム天然水に、多量の炭酸ガスを充填した無糖強炭酸水。お酒などの割り物としてはもちろん、そのまま飲んでも飲みやすい口当たり。定期便も人気です。

特設サイト返礼品ページ



※富士山工場の工場見学は現在休止中です。

食品

おいしいもの
盛りだくさん!

お話を聞いたのは

倉沢製あん

高村 倉沢製あん所のあんこの特徴を教えてくださいませんか?

倉澤 小さい子どもからお年寄りまで、安心して食べられるあんを届けたいという思いで家族でつくっています。添加物もちろん使っていません。

原料の小豆は北海道産を使用していますが、同じ産地でも味が毎年少しずつ変わるんです。なので、毎年道内の複数の産地の味を確かめてからうちに合うものを選んでいきます。

高村 返礼品事業者になって1年が経ち、認知度が上がってきた2024年末は大変でしたよね。かなりの受注をいただいて。

倉澤 12月だけで数千件でしたね。件数が多くて驚きました。

高村 一気に送るのが難しいので、どのくらい出せそうか倉沢さんと相談しましたね。通常は受注後約2週間で発送するのですが、1月・2月・3月と発送時期を選べるようにして分散させました。

倉澤 「1月は発送量がこのくらいですけど、どうですか? 無理だったら教えてください」と言ってくれて。こちら甘えることがありますし、高村くんが頼ってくれることもあります。高村くんとは1日おきくらいに電話しますよね。申し訳ないくらいにやり取りが多いのですが、親身になってくれるところが富士吉田のよさだと思います。本当に些細なことをつねに相談していますね。高村くんから知恵を借りたいんですよ。

高村 ラリーを続けながら進めていますね。返礼品事業者に

わが子のように
一個ずつ丁寧に。

倉沢製あん所
倉澤さん

市役所担当・
高村さん

なって感じた変化はありますか?

倉澤 全国からの問い合わせが少しずつ入るようになりました。返礼品で選んでくださった方から「すごく美味しかったので直接発送をお願いできますか?」とお電話をいただいたり。「他と食べ比べてみたけど、ここが一番美味しかった」という声を聞くと、事業者になって本当によかったと思います。うちは、地域に根づいたあんこ屋さんで、地元の方が支えてくれたから今がある。トースト用や最中、セットが生まれたのも地元住民の声があったからなんです。高村 全国の方に知っていただいて、倉沢製あん所のファンも富士吉田のファンももっと増やしたいですね。

倉澤 ふるさと納税のレビューで「あんこをきっかけに富士吉田に行ってみたくなりました」と書いてくださる方もいます。あんこって入口が狭いと思うんですけど、あんこを通して市の魅力を伝えられるのは嬉しいです。最近は小さな製あん所は減ってきているので、これからも家族で頑張って続けていきたいです。

特設サイト返礼品ページ



商品化するまでに約7年の歳月をかけた、トースト用あんこ。柔らかくトーストにのせた時にパンからこぼれ落ちず程良いかたきになります。アイスクリームにもおすすめ!



いつでも、誰でも、
あんこが買えるように



施設

みなさんの支援でできた
富士山ジビエセンター

お話を聞いたのは

DEAR DEER

DEAR DEER
古屋さんマイナスを
プラスに変える。市役所担当・
渡辺さん（課長）

渡辺 DEAR DEER は2024年7月にグランドオープンを迎えました。建設にあたって、ふるさと納税クラウドファンディングを2回実施して、延べ39,387人の方々から6.3億円ものご支援をいただき実現することができました。古屋さんには約3年の構想段階からご相談をさせていただいていたので、とても感慨深いですね！

古屋 そうですね、ご支援をいただいたみなさまには感謝の気持ちでいっぱいです。富士山に生息する野生鹿は、これまで農作物や樹皮を食べてしまう厄介者として扱われてきました。そんなマイナスな存在とされていた鹿を、命を無駄にせずどうにか有効活用できるようにと、商品開発や食肉加工、情報発信にも励んでいます。

渡辺 健康志向の方も増えてきて、ジビエのニーズも高まっていますよね。人間だけでなくペットフードに対する意識も高くなってきています。返礼品に出していただいている、ペット用鹿ジャーキーも大人気ですね。

古屋 鹿の様々な部位からジャーキーをつくっていますが、無添加なので安心してペットにあげることができると好評いただいています。栄養価も高く、低カロリーなので健康維持にも効果があるんです。

渡辺 店舗ではすでに鹿などを使ったオリジナルソーセージが販売されていますが、どれも美味しいですね。これから返礼品になるのが楽しみです！富士吉田名物の吉田のうどんに欠かせない万能調味料すりだねを入れたピリ辛のソーセージは、お土産にも良いなと思いました。

古屋 できるだけ地元のものを使いたくて、山椒、大葉、クレソン、蓮根などさまざまな季節の農産物を使って日々試作品をつくっています。

渡辺 今後ラインナップが増えていくのが楽しみです。「DEAR DEERに行けば何か面白い食べ物がある」と思ってもらえる施設にしていきたいですね！

古屋 DEAR DEER は、年間200万人が訪れる道の駅エリアに隣接しています。加工品が購入できて、鹿肉を使ったハンバーガーやホットドックをその場でお召し上がりいただけます。地産地消やジビエ文化についても知っていただく、学習施設としての役割も担っています。ジビエを通して命の大切さを考えるきっかけを与えられたらと思っているので、寄附者のみなさまにも富士吉田にお越しの際はぜひ足を運んでほしいです。



富士山の雄大な自然の中で育った野生鹿などの貴重なお肉やブランド豚「富士ヶ嶺ボーク」などを使用したハムやソーセージの製造・販売をしているジビエセンターです。

特設サイト返礼品ページ

ジビエを通して
命の大切さを考える

雑貨・日用品

このまちで作られる
日常をお届けします

お話を聞いたのは

株式会社シノン



株式会社シノン
滝口さん



市役所担当・
小林さん

その後も続く
信頼関係を。

細部までこだわり抜いた
ジュエリーをお届けしたい



小林 滝口さんのお家はもともと機屋さんだったんですね。ものづくりの歴史は100年にも及ぶそうですが、ご家族の影響は感じますか？

滝口 祖父や父がものづくりをするのを子どもの頃から見ていたので、自分の手でつくったものをお客さまにお届けしたいという想いや品質にこだわる姿勢は受け継いでいると思います。祖父はいつも「商品が一番の顔だ」と言っていたので、商品自体が広告塔となり、ひとりでに営業してくれるような品質のものづくりをしたいと思っています。

小林 ふるさと納税に参加してみたいかですか？

滝口 今までは卸しがメインだったので、お客さまのニーズや考えを直接知れるようになったのは大きな変化でした。口コミを参考に商品化をし、人気商品になったアイテムもあるんですよ。また、社内でもネットを利用して商品を販売するという概念が意識付けられ、販売経路の選択肢が増えました。ジュエリーは高価なものだから購入時に偽物じゃないかと不安になる方もいるかもしれませんが、富士吉田という看板があるから信頼感を持ってくれている方もいるのかもしれないと思っています。

小林 たくさんの良い効果があったようで、担当者として嬉しいです。

滝口 市職員のみなさんは広報の専門家かと思うほど各ポータルサイトとのコミュニケーションもよく取れていて、そこから得られる情報や他の市町村の動向をフィードバックしてくださったり、的確なアドバイスをくださったりするので、感謝すると共にリスペクトしています。

小林 ありがとうございます。私は寄附者さんにシノンに来ていただいて、商品を目で見て確かめてもらえたら良いのと思っています。滝口さんの人柄や商品へのこだわりもぜひ知っていただきたいです。

滝口 店舗がある訳ではないのでタイミングはご相談になりますが、うちとしては大歓迎です。商品をお届けして終わりではなく、その後も続いていくような関係性を築き、信頼関係の中で良いものがまた増えていったら良いですね。富士吉田のふるさと納税は、多くの事業所がお客さまとの関係性を築いていくための良いきっかけになっていると思います。



1923年創業の「滝口織物」の関連会社として、1993年に設立された宝石メーカーのシノン。常に創造とチャレンジを続け、確かな品質のジュエリーをつくり続けています。

特設サイト返礼品ページ





豊富な定期便

「今月は何が届くかな」と楽しみなのが定期便！富士吉田市の定期便は、飲料水やお米だけでなく、ヘアケアセットや布団、珈琲、トイレトペーパーに至るまで、日常生活に欠かせない日用品を豊富に揃えています。



富士吉田を体験する返礼品で、訪れる楽しみも！

ふるさと納税をきっかけに本市を知っていただいた寄附者の皆さまが、その返礼品が生まれた地域、富士山やお水、空気を楽しみに観光にお越しいただくことが多くあります。返礼品を受け取るだけで終わらない、寄附者の皆さんと富士吉田市のつながり作りを大切にしてい取り組んでいます。いつか訪れたい、そんな想いをもちながら返礼品を選んでいただけたら嬉しいです。



富士吉田市ふるさと納税特設サイトがおすすめ！

富士吉田市が独自に運営している特設サイトでは、ポータルサイトと比較しふるさと納税に係る経費を抑えられることから、一部返礼品に特設サイト限定の寄附金額を設定しています。少しでもお得に寄附をされたい方は、特設サイトからの寄附がおすすめです！

● 例えば… 山梨県産富士山麓牛 切り落とし800gの場合



特設サイトだと ...!!

10,000円

《ポータルサイト寄附額》

12,000円

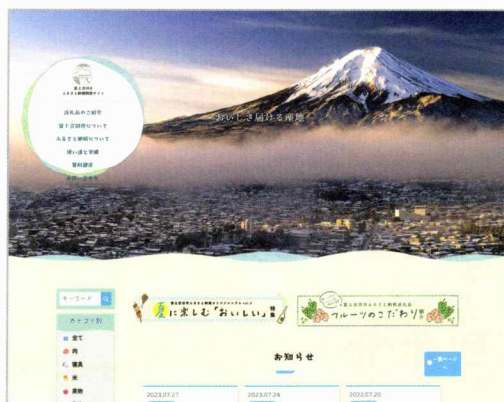


他にも寄附額の違う商品が多数あります！ぜひ特設サイトからチェックしてみてください！



申込方法

富士吉田市
ふるさと納税の



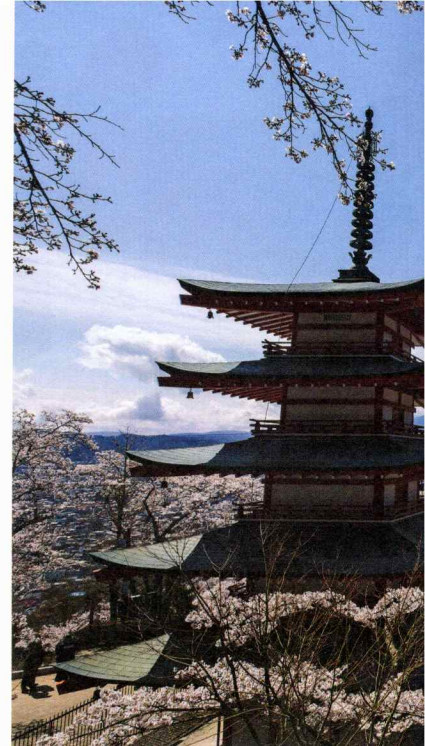
富士吉田市ふるさと納税 特設サイト

ふるさと納税は
特設サイトからがおすすめ!

富士吉田市 ふるさと納税

検索

<https://furusato-fujiyoshida.jp>



ポータルサイトからインターネット申し込み

富士吉田市ホームページより各ポータルサイトへのリンクがございます。



さとふる



ふるさとチョイス



ふるなび



楽天ふるさと納税



au PAY ふるさと納税



ふるさと納税
amazon



ANAのふるさと納税
ANAのふるさと納税



「寄附申出書」による申し込み

ホームページよりダウンロードできます。また、電話でのお問合せの場合は必要書類を全て郵送いたします。

必要事項を記入し、次の方法によりお申し込みください。

【郵送】〒403-8601 富士吉田市下吉田6-1-1 富士吉田市役所 ふるさと創生室 ふるさと寄附推進課 宛

【TEL】0555-22-1111 【FAX】0555-22-0703 【Eメール】furusato@city.fujiyoshida.lg.jp

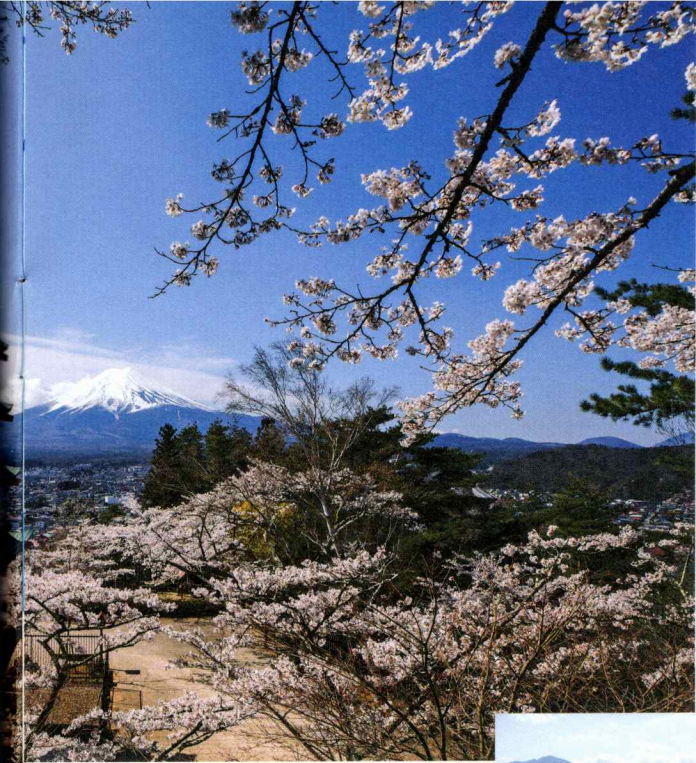
※「寄附申出書」でのお申し込みの場合は、クレジットカードでの決済はできませんのでご注意ください。



入金方法

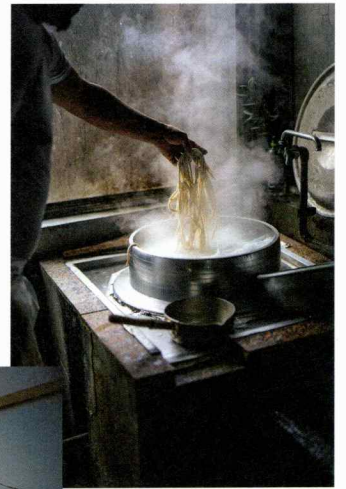
クレジットカード・各種電子決済・コンビニ支払い・ゆうちょ銀行・口座振り込み・窓口での現金支払い等 ※入金方法については各ポータルサイトによって異なります。





**BRAND NEW
FUJIYOSHIDA**

あなたが
まだ知らない、
富士吉田。





富士吉田市役所 ふるさと創生室 ふるさと寄附推進課

〒403-8601 山梨県富士吉田市下吉田 6-1-1

TEL : 0555-22-1111 FAX : 0555-22-0703



詳しくは、富士吉田市
ふるさと納税特設サイトを
チェック！